



衣川 実介

『パラサイト20 (pallasite)』

2013年 9月28日、姫路科学館で隕石、隕鉄とパラサイトを見せて頂いた。長さ10cm、幅 5cm、厚み 6mm位か、銀白色の枠の中に緑色や黄色がかかった宝石が埋め込まれているようです。石鉄隕石のパラサイトは鉄とニッケルの合金の中に粒のカンラン石が入り込んでいます。カンラン石はマグネシウムや鉄がケイ素と化合した鉱物です。私もこんな石鉄隕石を『鉄のふしぎ博物館』に展示したいと思っています。

鉄を製錬するとき、高炉内では2000℃ほどの高温になり、溶けた鉄の上に鉱石中の不純物、鉄滓（ノロ）が浮きます。地球上では重力が働き、混合されたものが溶けた場合、比重の差で重いものは下、軽いものは上に選別されます。パラサイトのように比重が 8近い鉄、鉄ニッケル合金と比重 3.2 ~4.4のカンラン石が塊状に合金中に含まれることは起こり得ないのです。宇宙のふしぎ感じます。私だけがそう思うのか？ 8月号の『夢通信』にパラサイトのことを書きましたが、意外な本の『あとがき』に以下の文章がありましたので紹介します。

私は大学院の学生の時、隕石（いんせき）がどのようにしてできたのかということ調べていた。それも、「パラサイト (pallasite)」とよばれる、カンラン石と鉄ニッケル金属が混ざった石鉄隕石の起源という、誰が興味をもつのだろうと思うようなちょっと風変わりなテーマだった。いまこのような研究はどんな人が受け継いでいるのだろう。それとも、もうそういう研究はあまり興味をもたれなくなっているのだろうか。

——中略——

大学院の研究室ではカンラン石の分析が中心だったが、歴博ではむしろ金属の分析をすることの方が多くなった。

——後略——

この本には古代銭貨『皇朝十二銭』を探ると題して、素材の産地を推定していました。その他には日本刀の作り方、鉄砲の製法をめぐって、大鍛冶の復元などが取り上げられていました。

展示品を見せて頂いた姫路科学館の青野館長様初め、皆様に感謝します
参考図書 『金属が語る日本史』 斎藤 努 吉川弘文館 2012年

姫路科学館のパラサイト



苦土カンラン石



『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかわりますよ。
ぜひお越しください。



ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋



今年も1年間宜しくご指導ください。